

令和元年度 第3回 大阪府立泉陽高等学校 学校運営協議会

日時：令和2年2月14日(金) 16:00～17:00

場所：大阪府立泉陽高等学校校長室

出席者：大阪教育大学 福永 光伸 教授
本校同窓会 高木 学 副会長
しまだ病院 志賀 亮子 内科副部長
本校PTA 下岡 秀司 会長
(立志館ゼミナール 中村 俊一 館長、堺市市長公室 山崎久樹 企画部副部長は欠席)

事務局より（報告）

- (1) 学校教育自己診断の結果について
- (2) 平成31年度学校評価について
- (3) 令和2年度学校経営計画について

協議

- (1) 保護者からの意見書の提出状況について

意見書の提出はなし

- (2) 平成31年度学校評価および学校経営計画について委員からの意見と提言

(委員A) 読書する習慣を向上させるために、教科科目の授業や生徒の進路指導に関わる場所について触れて図書を推薦するとよいのでは。新着本についての紹介についても一斉メールなどで紹介する方法も加えてはどうか。

(委員B) 高校生の読書の総量は確かに減っているのだろう。大学受験などに直接関係するものでない、試験に出ないなど、すぐに役立つものではないが、読書に興味関心を持たせるためにも図書館のレイアウトなどを工夫するのはどうか。

(委員C) 学習面だけでなく体も鍛えてほしいところだ。体育や部活動での怪我が多いとのことだが、部活動でも体づくりができていないのに頑張りすぎているところがあるのでは。高校生の生活は学習や部活動など忙しく、余裕がないところがある。自分が自由に考え、行動できる時間を与え、高校生活を見直すきっかけを見つけるようにすると泉陽生は変化するのでは。

(委員A) 中学校の進路学習は相当なボリュームで行っている。高校1年生の時期に中学校時の進路学習を振り返らせた上で、高校生として進路学習をスタートするとよいのでは。

(委員C) 学校教育自己診断の「学校だけで進路達成に必要な学力が身に付く」という設問のポイントが教職員に比べて生徒や保護者は低いことについて、保護者の立場で想像すると「学校の授業でだけ」ととらえ、家庭学習を含めていないのでは？本来、学校の授業で十分な学力をつけているはずなのに「受験を突破する力」ととらえ、学校だけでは学習量が不足しているという印象が強くなっているのでは。この設問の表現を変えてみると、より正しい評価が得られると思う。

- (3) 令和2年度学校経営計画について

(委員D) これまでの各学年からの指導と校務分掌の指導により十分な成果をあげているところだが、この現状を維持するためにも、それらの有機的な連携が大切になる。

◎令和2年度の学校計画及び学校評価のめざす学校像と中期的目標について委員の皆様より承認いただいた。

諸連絡

令和2年度 第1回学校運営協議会日程は 5/29（金）を予定